



北海道廳野付牛中学校
北海道廳立北見中学校
北海道北見高等学校
北海道北見北斗高等学校

東京 とどの実



〈発行〉

東京とどの実会 事務局

〒113-0034 東京都文京区湯島 4-6-11
湯島ハイタウン A-207

http://www.tokyo-todonomikai.com

mobile 080 - 2123 - 7380

mail tokyotodonomikai@gmail.com

同窓生紹介

Interview

ラグビーとの出会いによって導かれた人生

昭和48年卒 山本 勉さん 丸紅株式会社 理事



今年ワールドカップが日本で初めて開催されます。北見北斗といえばラグビー。そこで今年の同窓生紹介は北見北斗、明治大学、丸紅でご活躍された山本勉さんにお話を伺いました。

山本さんの北斗入学は少し変わっています。受験当時は札幌にお住まいで、札幌北高校へ願書提出していましたが、お父様の北見転勤により、願書編入学で北斗高校に入学されました。北斗では特に運動部に入るつもりはなく、放課後にぶらっとグラウンドに来ていたところをラグビー部の先輩に「拉致」され、いきなり着替えさせられて練習に引っぱり出されました。「君は足が速いねえ」と誉めそやされ、また毎日先輩に拉致されて、気が付いたらラグビー部員になっていました。早くもその年の6月の練習試合には右ウィングで



花園での対天理戦（昭和48年1月）ボールを持っているのが山本氏

出場、3トライをあげる活躍をされました。当時指導されていたのは箕口先生。北斗、そして明大ラグビー部の先輩でもありました。（箕口先生は今年、恩師として東京へお越しいただく予定です）。
2年の秋にキャプテンに就任、新人戦での活躍が期待されましたが、練習中に顎を骨折、復帰まで数か月の療養を余儀なくされました。3年になり、メンバーも充実し、今年花園へ、という矢先にも今度は部室のボヤ騒ぎ。ラグビー部が責任を取られ、対外試合出場禁止の憂き目にあいました。しかし練習は地道に続けていました。秋には出場が許され、その後、破竹の勢いで勝ち上がり、ついに7年ぶりの全国大会（第52回大会）出場を決めました。花園での初戦の相手は、

丁度その10年前の42回大会決勝で敗れた因縁の相手、天理高校。結果は13対12で惜しくも敗戦。この試合は、後半の試合時間が5分短く終わるなど、疑問の残るものでしたので、新聞各紙は北斗に同情的な記事が多かったようです。

3年生の夏、例年のように明大の北島先生が視察に来られ、部員一同整列していると、先生が「来年はどの子が来るの？」と問われ、OBの方が、「こいつです」と。先生も「そうか、山本君か、うちに来るのは」ということで、他の選択肢を選ぶまでもなく、明治でラグビーをすることに決まってしまったそうです。

明大ラグビー部に入るのは、明大そのものに入るよりも遥かに難しいそうです。全国大会出場経験やOBの推薦がないと、「セレクション」に参加できない。山本さんは見事に「セレクション」を通過、明大ラグビー部への入部を果たしました。同ラグビー部は百人以上の部員が在籍、レギュラー争いはし烈を極めましたが、山本さんは3年の夏にレギュラーを獲得、以降、卒業するまでの全試合にレギュラーとして出場されました。授業にはほとんど出なかつたそうで、ラグビー一筋に打ち込む日々でした。

大学3年のシーズン、明大は強力フォワードに加え、松尾雄治さん、山本さんの充実のバックス陣で連勝。対抗戦は早大と引き分け、両校優勝となりましたが、

（面）につづく

北見北斗高校校長退職に当たってのご挨拶

お世話になりました



北見北斗高校 校長 渡部 道博先生

北見北斗高校に赴任してから3年のうち、東京とどの実会には3回出席させていただき、皆勤賞となりました。懇親会が、とてもなごやかにすすんでいくので居心地が良いのと、私自身がとどの実なので東京在住の同期に会えるのが楽しみで出席していました。

小原同窓会長が北斗の同期であることもあり、学校と同窓会が二人三脚で「現役の生徒たちファースト」の支援を目指していた3年間でした。2年目の平成29年には、ボールペンやクリアファイル、3年目の平成30年には「北斗でぬぐい」などを持ち込んで寄付のご協力をいただきました。お陰様で、海外派遣事業が充実してきました。台湾サイエンス研修は、今年は、台湾の河川水質調査、地質調査なども実施し、北斗高校での教育活動とリンクす

山本勉氏インタビューのつづき
大学選手権では早大を圧倒し、優勝。その勢いのまま、日本選手権へ。三菱巨上京都と対決、山本さんは2トライを挙げ、これを撃破して優勝。明大唯一の日本選手権獲得に大いに貢献しました。

その後、昭和52年に明大を卒業、総合商社の丸紅に、北斗、明大ラグビー部の先輩である宮井さんの推薦で入社されました。入社後は、平日は仕事、週末はラ



日本一になった対三菱自工京都でのトライ (昭和51年1月) 写真提供/産経新聞社

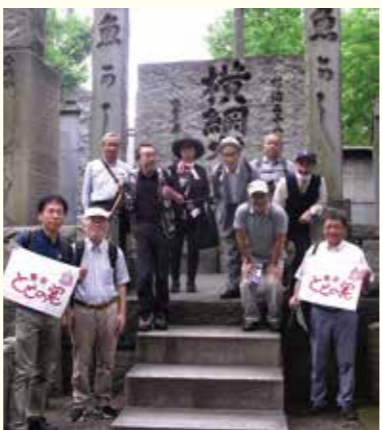
グビーと二足の草鞋を履きながら、弱小チームを強化、関東社会人ラグビー2部で優勝し、1部に昇格しました。更に数年後、東芝府中や東京三洋などのそうそうたるチームの中で3位まで上り詰めました。監督、部長を歴任された後、海外赴任を契機にラグビー活動から退き海外での業務に専念、二〇〇一年の米国同時多発テロの時にはニューヨークに滞在されていた、惨劇を目の当たりにしたそうです。

この間、胃がんを患い、手術をするなど大変な時期もあったそうですが、2回目のニューヨーク赴任から帰国後、執行役員に任命され、丸紅名古屋支社長、グループ事業会社社長等を歴任され、昨年退職、退職されました。インタビューの最後に、今の北斗ラグビー部へのエールをお願いしたところ、ズバリ「情熱と努力が足りない。北斗は頭もいいし、もっと努力できるはずだし、努力すれば必ず道は拓ける（全国大会にも出場できるし、その上にも行ける。）」という叱咤激励の言葉を頂きました。

第68回 東京とどの実の集い

「深川から清澄・白河、両国へ」報告

昭和47年卒 生駒 篤



半蔵門が総会会場だった十数年ほど前、皇居に近い立地を生かして、総会日の午前中「ミニ強行遠足」が行われておりました。一周約5kmの皇居外周を歩いたり走ったり、いかにも「北斗らしい」行事だったことを記憶しています。会場が変更になって「ミニ強行遠足」が出来なくなったことから始まった「都内散策」ですが、池袋、新宿、中野、麹町、市ヶ谷と総会会場が転々とするのに合わせ、都内の名所・旧跡を訪ね歩き回っています。思い出話に花を咲かせながらの「散策」はそれなりに楽しく、今年（二〇一八年）で13回目を迎えました。走らないので「北斗らしくない」のが残念ですが、今年が「平成最後」になってしまいました。

9時30分、東京メトロ東西線門前町に集合したのは、37期半田顧問以下11名。深川不動尊を皮切りに歩き始め、富岡八幡宮では、話題は前年末の「事件」で持ちきり。それはさておき、毎年8月に催される「深川八幡祭り」は「神田祭」、「山王祭」と並ぶ「江戸三大祭り」の一つで、毎年大賑わい。また江戸勲進相撲発祥の地であることから

「横綱力士碑」を始め、境内には大相撲ゆかりの石碑が多数建立されています。祭りの日はともかく、それ以外の日は参拝客数こそ多いものの落ち着いた佇まいを保っています。首都高速の高架下をくぐり抜けると「仙台堀川」に突き当たります。お堀沿いは数百mに亘る桜並木で、桜の季節には是非とも訪れたい名所です。「清澄庭園」手前で饅頭を買います。東京には所々に和菓子屋があつて散歩好きを癒やしてくれます。小名木川手前の白河地区では、浴衣姿のよく肥えた若者が目立ちます。この辺から相撲部屋が増えてきて「両国（国技館）」に近づいたことを実感させてくれます。こじんまりした「芭蕉庵史跡庭園」には、

芭蕉が観たであろう隅田川沿いの風景を画いた石碑が並んでいますが、今はその時代を偲ばせるものは何もありません。ここから隅田川東岸の広い遊歩道を歩きます。浅草とお台場とを結ぶ水上バスには乗客が鈴なりです。堅川を渡ると両国。ここで「赤穂浪士の討ち入り」で有名な「吉良邸跡」へ。今は「本所松坂町公園」というちっぽけな公園になってしまい、討ち入り当時の二五〇坪の「吉良家上屋敷」の面影はありません。「この通りを浪士達が意気揚々と歩いたんだな」と、暫し感慨に。回向院は、正称「諸宗山無縁寺回向院」、別名「本所回向院」と言い、その名の通り、江戸期の振袖火事を初めとする、数々の火事や地震の無縁仏や罪人を吊い、犬猫他動物たちの墓まであります。



大きな交差点を渡って1時半両国駅に到着。いい汗かいたところで、総武線の各駅停車に飛び乗り、総会会場の市ヶ谷へと向かいました。

今年の散策案内

「豊洲市場・築地から月島、佃島を歩く」

市場移転が終わって、落ち着きそうなのに中々落ち着かない。で、実際現場はどうなっているのか、一度見てみよう！ということでご企画しました。

「ゆりかもめ市場前駅」に集合します。豊洲市場を構成する巨大な3つの施設「水産仲卸売場棟」、「水産卸売場棟」、そして「青果棟」を「見学用デッキ」を早足で移動しながら見学します。近代的で清潔で、市場のイメージとはかけ離れているようです。「市場前駅」に戻り、「ゆりかもめ」と地下鉄有楽町線を乗り継いで「新富町駅」からウォーキングを再開します。築地本願寺、築地場外市場、波除稲荷、かちどき橋で隅田川を渡り、月島もんじゃストリート、住吉神社、佃大橋で隅田川を渡り返して「新富町」に戻ります。豊洲とは打って変わって昭和情緒が残る町並みを歩きます。ここから地下鉄を乗り継いで総会会場へ。今年も元気に歩き通しましょう！



波除稲荷(上)、築地場外市場(下)



会長 長谷川知子さん (昭和40年卒)



ゲスト 平田洸介さん (平成23年卒)



来賓・渡部校長先生 (昭和52年卒)



来賓・小原とどの実会会長 (昭和52年卒)



中締め 鎌田哲生さん (昭和61年卒)

第68回 「東京とどの実会」

世代ごとの集合写真



ゲスト平田洸介さんとご来賓のみなさま



活動報告 前田幹事長代理 (昭和40年卒)



監査報告 馬場正孝さん (昭和34年卒)
村田由美子さん (昭39年卒)



司会 田上博志さん、山口景子さん
(昭和50年卒)



校歌斉唱 松浦宏幸さん (昭和41年卒)
松浦さんは昨年11月急逝されました。



24～28年卒



30～34年卒



37年卒

第68回東京とどの実会の集いは、平成30年6月23日(土) 13:00からアルカディア市ヶ谷にて開催されました。来賓として北見北斗高校の渡部校長先生(昭和52年卒)をはじめ、北見のとどの実会会長、東京もいわ会会長、かしわ会東京支部長及び昭和24年卒から平成14年卒までの会員の方々111名が集いました。今年の当番司会である田上博志さん、山口景子さん(共に昭和50年卒)の開会宣言で始まった総会は、松浦宏幸さん(昭和41年卒)のリードで校歌斉唱に続き、この一年で故人となられた方々に黙祷を捧げました。長谷川知子会長(昭和40年卒)の挨拶の後には、前田幹事長代理(昭和40年卒)による活動報告、吉見じゅり会計担当(昭和56年卒)から会計報告、馬場監査担当(昭和34年卒)から監査報告、最後に前田幹事長代理から新役員が紹介され満場一致で承認されました。続く懇親会では、北見からのご来賓である渡部校長先生(昭和52年卒)、小原とどの実会会長(昭和52年卒)よりご挨拶をいただき、ご来賓の紹介、渡邊範道さん(昭和59年卒)の乾杯の音頭で終始和やかな語らいの場となりました。恒例

となった集いの前に行われる散策については、生駒篤副会長(昭和47年卒)より報告(深川から両国、初夏の江戸歴史探索)があり、その後、昨年のピョンチャンオリンピックでカーリング競技に日本代表選手として活躍された平田洸介さん(平成23年卒)からオリンピック参加報告及び今後の抱負について話していただきました。また、各卒業年別の写真撮影と続いた会は北見北斗高校第一応援歌と「今日の日はさようなら」を全員で合唱した後、来年の当番である鎌田哲生さん(昭和61年卒)の中締めで来年を期してめでたく散会となりました。



乾杯 渡邊範道さん (昭和59年卒)



散策報告 生駒篤さん (昭和47年卒)



38～39年卒



40年卒



41～42年卒



43年卒



44～46年卒



47～48年卒



50年卒



52～58年卒



59～77年卒

歓談



およせいただいた近況から

昭和43年卒 木村 篤

43期 卒業50周年 同期会開催

昨年(二〇一八年)10月14日～15日に、43期普通科の卒業50周年同期会が、北見の温根湯温泉で開催されました(商業科は8月に開催済)。北見在住の吉田勝次郎君以下幹事の努力もあり、地元北見、関西、東北、札幌等から多くが参集、勿論東京とどの実会からも66人参加の盛会となりました。

担任の後藤先生(化学)も会場にお見えになり、浅野先生(国語)には泊まりがけ宴会にもご出席いただきました。関西在住の岡田先生(世界史)は、足が悪いということ出席いただけませんでした。清酒の差し入れをいただきました。恩師に感謝です。

同期会は、加藤ケイ子さん司会の下、まず東相内で住職をしている小川香潤君に、同期物故者の法要を営んでいただくことからスタート。その後、

希を迎えます。益々元気に遊んでいく決意の43期からの楽しい50周年同期会報告でした。

昭和48年卒 矢萩 典行

初めての個展

48期2組は絵画の伊藤くん、フラメンコの岡本さんのアーティストがいます。デザイナーと陶芸の2足のわらじでやってきた私も、負けじと昨年12月に64歳にして初めての個展(陶芸)を20年以上住んでいる川越で開きました。とどの実のHPとFBでも紹介いただき、諸先輩や同期、後輩の人たちがたくさん来てくれました。この歳になって人との繋がりが、母校のありがたみを再認識しました。

前回の還暦同期会から早4年、今年もホテル黒部で8月に同期会が開かれます。それに合わせて、また伊藤君と二人展を開かせてもらおうと企んでいます。



42期広川さんご夫妻

戸惑いの中、参加してみてもビックリしたのは、想像していた以上に大先輩の方々が多く、45歳の私が圧倒的な若輩であったことです。現在勤務している会社の中ではベテランとして若手の指導をしている身ですが、

久々に身が引き締まる思いがしました。大先輩はともやさしく、気さくな方ばかりで、北見北斗高校卒業生の懐の深さを感じるとともに、誇らしく思いました。また、お話を伺うと、現在も重要な役割をもって社会でご活躍されている方が多く、後輩として嬉しく感じました。今回、初めて東京とどの実会の仲間に入れていただきましたが、この出会いを



初参加の皆さん(左から清水さん、平田さん、三好さん)

大切に、同郷の輪を広げたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

三好真理子(77期)

二〇一八年の3月頃、久々にお会いした北斗の先輩からこの会の存在を教えて頂き、初めて参加させて頂きました。会場に足を踏み入れると周りは大先輩ばかりで、場違いかもしれないと緊張感が高まったのが正直なところでした。しかし、会が始まってみると不安はすぐに消え去りました。優しい先輩方が気さくに話し掛けて仲間に入れて下さり、お酒を交わしながらとても楽しい時間を過ごさせて頂きました。

会の途中では、全員での校歌斉唱と、飛び入りでの応援歌斉唱がありました。母校の歌をこれだけ様々な方と共有している事実と、体に染み付いているのか、卒業以来にも拘らず、自然と口から歌詞が出てきて、嬉しさと懐かしさで思わず気持ちが高まりました。

これだけの広くの年代の方と、利害関係を越えて人と人とのつながりを享受できる貴重な場でした。これを機会にもっと深く多くの同窓生と繋がれたら嬉しく思います。

昭和52年卒 引地 聡

還暦を祝い、温根湯温泉に集合!

首都圏に住んでいる52期は年に1～2回、同期会を行っています。総会の後や北見から上京者がある時などを利用して開催しています。

平成30年度は我々52期にとっては



温根湯温泉大江本家にて

総会初参加印象記

昨年の総会に初めて参加したお二人に、その印象を語って頂きました。

清水真規(66期)

もう東京に移り住んで20年以上になりますが、会社の先輩であり北斗の同窓でもある先輩より突然のお誘いを受け、東京とどの実会の存在を初めて知りました。期待と若干の

還暦を迎える年ということで、昨年の会報でも触れましたように、昨年10月20日に温根湯温泉大江本家にて1泊2日で同期会を開催しました。当日は北見だけでなく、札幌や東京の同期、38名が参加しました。とどの実会会長の小原氏のあいさつの後、北見北斗高校校長(当時)渡部氏の乾杯の音頭で宴会が始まりました。昔話に花を咲かせたり、今の状況を確認しあったり、退職後の人生について語ったりと、様々な話題で大いに盛り上がりました。その後、会場を移しての二次会、部屋での三次会と夜の更けるのも忘れて、旧交を温め、還暦を祝いました。翌朝、3年後の再会を誓って、お開きとなりました。

